

=ともに生きる暮らしをめざして=

特定非営利活動法人

尾張地域福祉を考える会まごころ
まごころ 訪問介護事業所

まごころ

平成12年 12月1日 No.90
〒491-0037 一宮市貴船2丁目11-17
☎ 0586-73-8707
FAX 0586-73-8870

ミニデイサービス便り

園児さんと嬉し涙

保育園でのミニデイサービスの特徴は何と
いっても園児さんとの交流である。今日も園
児さんとの温かなふれあいが出来た。

いつものように、からだ全体で歌を唄って
くれる姿にお年寄りの顔が笑顔で崩れる。

お年寄りと一緒に唄える歌はみんなで合唱、
楽器でのリズム遊びも一緒に出来た。

「じゃあ、おじいちゃん、おばあちゃんに
「一緒に遊んでくれてありがとう」と言って
握手をして下さーい」と先生の声に、思い思
いに握手がはじまった。

その最中「おー」と泣き出されたAさん、
まだ高齢とはいえませんが車椅子生活の方であ
る。涙とよだれを拭きながら、不自由なから
だと言葉で「嬉しい、嬉しい。可愛えー、
僕にも孫がおる。じいちゃんと言ってくれる」
と、同居でないお孫さんとその姿を重ねられ
たのか何度もおっしゃる。

不思議な顔で子供達がよってきた。スタッ
フが「みんなが大事に思ってくれて、握手し
てくれて、嬉しいって泣いてるの。おじい
ちゃんおばあちゃんに優しくしてくれてありが
とう。みんなのおじいちゃん、おばあちゃん
も大切にしてくれ」と園児さんに話す。うなず
く子、じっと見ている子、手をさらに握る子。

その時、突然、今度は隣の車椅子のBさん
が、大きな声で「おー」と顔を上にあげて
何度も何度も泣いておられる。ご夫婦二人暮
らしの方である。すると、又、向こうのCさん
も。みると何だかみんな涙目になっている。

何ともいえない温かな空気だった。
高齢者イコール孤独と表現される時代であ
る。今日のことは、小さな園児さんにも何か
を感じてもらえたような気がしている。

園児さん、本当にありがとう！

12月のミニデイサービス

研修南保育園12/7、21 事務所12/14、16、28

☆☆ 介護予防、自立支援講座 ☆☆

～～高齢社会は介護現場の問題から、もうひとつの大きな課題へ
寝たきりをつくらない自立高齢社会にどう対応していくのか～～

一宮市は、痴呆予防・家族介護・自立支援の3講座を「まごころ」に委託し開催。
受講生355名。講座への関心は高く、学び集う場所作りの必要が感じられた。

- ◆ 地域に支え合える仕組み作りが必要である。(究極の痴呆予防策)
- ◆ どんな病になってもかわる人次第で、共に社会の一員として生きることが出来る(ケアの質、ワーカーさんの育成)
- ◆ 「リズムでリハビリ」は有効であった。(お年寄りが実際に証明)
- ◆ よりよい介護には介護技術の向こうに見えるものを学ぶことが大切。(寝たきり体験)
- ◆ 病気を老いのひとつと受け止めて挑戦する。(寝たきりにならないために、起き上がる、歩く、歩いてトイレに行く)
- ◆ お任せの人生でいいのか、「生きてるな」と感ずる人生にしたか。
- ◆ 健康なからだは自らの努力で、毎日5カ所の筋肉を動かすように。
- ◆ 残り物を工夫して、低栄養

このほど、会が一宮市から委託を受けて行った痴呆予防講座、家族介護講座、高齢者自立支援講座の全講座が終了しました。会では、より良い講座を目指し、内容を十分検討、どの講座も大きな反響をいただきました。

今回、痴呆予防講座二コマの公開講座は別にして、講座の内容に合わせ、一講座の参加人数を基本的に普通の講座より少なく限定し、中身の濃い講座としました。結果、講座は、受講者の顔が見え、受講生の考えも受け止められ、より具体的に効果的な講座になりました。

講座から学んだこと

養子防に役立つ。

今、高齢者の7/8割が介護保険を使う必要のない自立高齢者ともいわれます。今後、このような方たちが、いつまでも元気で生き生きと暮らせる地域作りが重要であり、その対応が課題だと言われている。その中で、自立支援に向けた講座開催も大きな方策のひとつであることは言うまでもありません。

受講の方から、「地域の中に気軽な相談窓口がほしい」、「分かりやすい具体的な講座を住んでいる地域の中でやってほしい」などの声もありました。

愛知宅老連絡会主催
広げよう小規模ケア・つなげようネットワーク

小規模ケアの必要・自宅でない在宅ケア
フォーラムに参加

11月26日(日)名古屋のウイル愛知で県内小規模施設、宅老所の活動を考えるフォーラム開催。

■ 小さな宅老所は出発点が大規模では出来にくいお年寄り一人一人に合わせたケアを、先駆的に取り組んできたところが殆どであり、様々な発想で利用者に合わせたサービスをこだわりながら提供している内容が発表された。

■ 名古屋市の介護保険課の松雄氏は、施設は食事作りと職員の対応が大切な特徴だと思うので、大きな施設では出来ないそれぞれの特性を、今のまま皆さんに是非やってほしい。他団体と違っていいと思う。今後、行政としては地域に根差した活動をされていく市民とどうパートナーシップをとっていくのか考えていきたい、と話された。

■ また、特別養護老人ホーム「あいちちよいの杜」の吉田施設長も、施設規模が大きくなり過ぎて、お年寄りの役割が職員の役割になってしまっているという指摘、今後ユニットケアを考えていくと話された。合わせて、地域に密着した小規模のグループホームの在り方を示されました。

■ グループホームに、国が地域密着整備資金として助成の方向にあると情報提供もありました。

様々な角度から、小規模ケアの意味が語られ、内容あるフォーラムでした。

